

経営比較分析表（平成30年度決算）

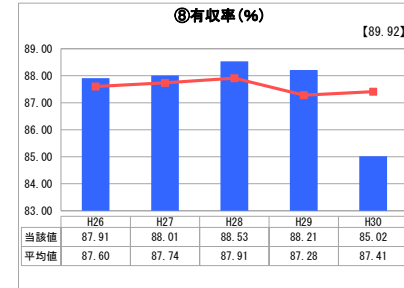
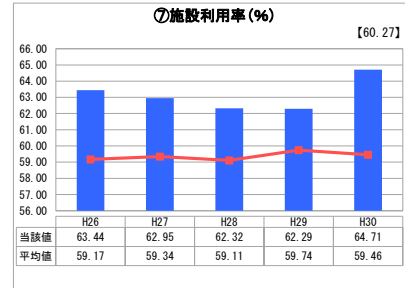
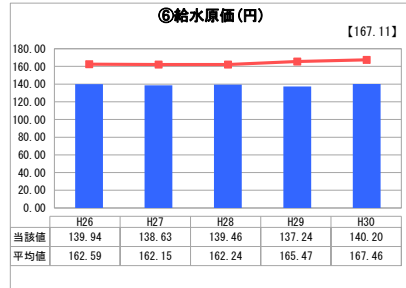
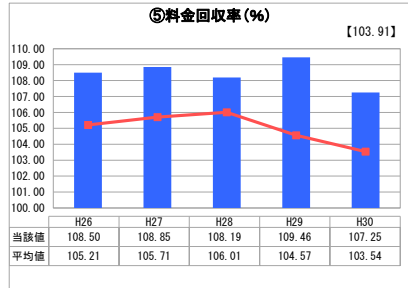
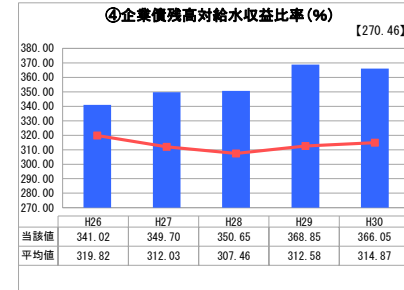
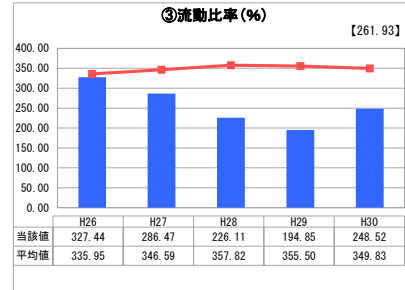
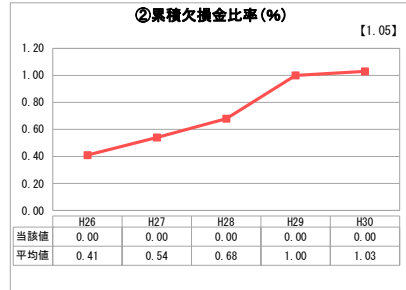
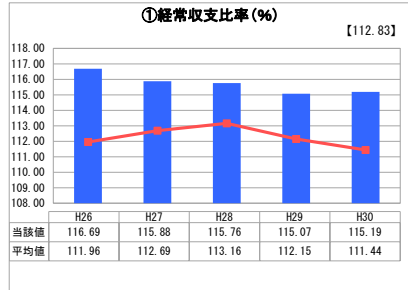
埼玉県 羽生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	55.76	99.98	2,370	

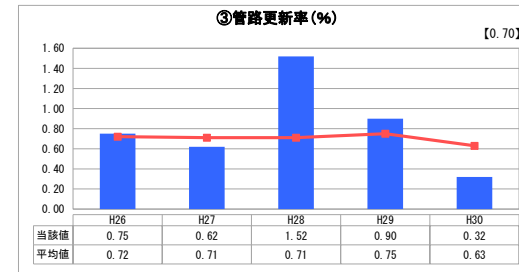
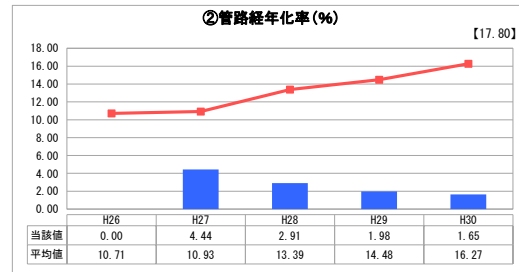
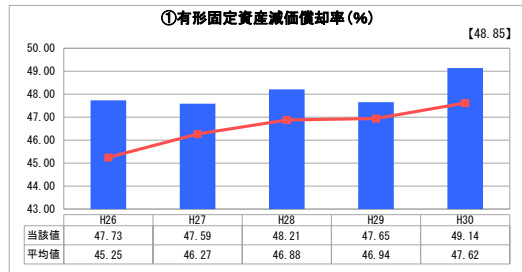
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
55,112	58.64	939.84
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
54,946	58.64	937.01

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
⇒指標が100%を上回っており、健全な経営が行われています。
- ②累積欠損比率
⇒累積欠損金はありません。
- ③流動比率
⇒指標は100%を上回っており、支払いに要する現金の確保が図られています。平成26年度より会計基準が見直され、借入資本金を負債に計上することになったために指標が大幅に下がりました。
- ④企業債残高対給水収益比率
⇒ほぼ一定の比率で推移していますが、将来的負担の軽減を図るため、今後の企業借入額の縮小に努める必要があります。
- ⑤料金回収率
⇒指標が100%を上回っており、給水に係る費用が給水収益で賄われています。
- ⑥給水原価
⇒ほぼ一定の値で推移しており類似団体平均値を下回っていますが、施設の更新に伴う減価償却費が増加傾向にあるため、今後は上昇が見込まれます。
- ⑦施設利用率
⇒施設利用率が上昇しましたが、要因の多くが漏水であることを踏まえ、今後、施設規模の妥当性に留意する必要があります。
- ⑧有収率
⇒近年、概ね88%程度の値で推移していましたが、漏水や区画整理事業区域内の水質維持のための排水により低下しました。今後、無収水量の要因となっている漏水を踏まえ、老朽管の更新や適切な維持管理により、漏水防止対策を進めなければならない状況です。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
⇒保有資産の耐用年数が近づいており、施設の老朽化が進んでいるため、計画的な施設の更新が必要となります。
- ②管路経年化率
⇒類似比較団体より低い水準にあり、管路の更新を継続して行い、施設の維持管理に努めていく必要があります。
- ③管路更新率
⇒計画的に老朽管の更新事業を進めてきていますが、近年は老朽管更新対象地区が市街地や国県道になったために費用がかさみ、更新率が低下しています。

全体総括

経営状況的には、「経常収支比率」、「流動比率」及び「料金回収率」ともに100%を超えており、黒字経営による健全な経営を行っています。但し、施設については、老朽化が進んでいるため、経年化率等による優先順位に基づき、また、将来的な経営状況を鑑み、計画的に施設の更新を進めていく必要があります。